

2・9 東京都知事選に向け訴えます

戦争・改憲阻止！安倍打倒！ 「教育の民営化」やめろ！

闘う学生自治会こそ回答だ

猪瀬を打倒した！ 学生は今こそ行動しよう！

2月9日に東京都知事選が行われます。この1ヵ月間、学生は自らの未来をかけて議論し、行動しよう。

猪瀬が昨年12月に辞職・打倒されました。猪瀬は道路公団民営化に続き、都の病院を民営化して資本の食べ物にしようとしてきたやからであり、労働者民衆の怒りで打倒されたのです。今度の都知事選挙は、こうしたやからから東京を奪還する闘いです！

私たち学生の都知事選への回答は何か。社会のすべてを資本の食べ物にしてきた新自由主義というあり方に断を下すことです！ その力は労働組合・学生自治会に団結して闘うことの中にある！ この立場をはっきりさせない都知事候補など1人もいない！

安倍の戦争・改憲を絶対許すな！

猪瀬打倒情勢に巨大な打撃を受けているのは安倍・自民党政権です。秘密保護法の強行採決、靖国参拝、沖縄・名護新基地建設強行、武器輸出などすべては労働者民衆の戦争絶対阻止の怒りを解体できないまま戦争に突き進むしかない支配階級の脆弱な姿です。



闘う弁護士 法政大学弾圧裁判・弁護団長
鈴木達夫さん

沖縄で今、「新基地建設絶対阻止、基地容認の県知事は即刻辞任せよ」という根底的な怒りが労働組合・学生を先頭に開始されています。沖縄と連帯し、東京から戦争・改憲への道を絶

対阻止し、労働運動・学生運動と国際連帯の力で安倍を打倒しましょう！

絶対反対—学生自治会建設でこそ勝利できる！

都知事選挙は「3・11」以降の日本の労働者民衆の「全部嘘だった」「もうだまされない」という絶対反対の怒りと闘いを解体するやからとの対決です。とりわけ、脱原発の仮面をつけて登場し、運動の分断・解体を狙う細川護熙（細川・小泉）と宇都宮健児と徹底対決しよう！

細川のバックに小泉元首相がいますが、小泉政権下で大学はどうなりましたか？ 国立大法人化こそ大学を企業が私物化し、原発推進大学と御用学者を生み出す仕組みを作った元凶です。全学生の敵です！

共産と社民が支持する宇都宮は「汚染水は完全にコントロールされている」「健康被害は現在もこれからも一切ない」という大嘘の上に行われる2020年東京五輪を「平和の祭典に」などと賛美しています。「被曝を許さない、福島怒りの圧殺を許さない」という立場に民衆が立つことを許さないという本性がここに明らかです。そのような反原発・脱原発など一億%インチキです！

絶対反対で闘うことの中こそ、社会を変える圧倒的な展望があります。改憲と原発再稼働に絶対反対し、教育の民営化—「大学改革」を粉砕する学生自治会建設を推し進め、その力で都知事選に勝利しよう！

1千万人の怒りでアベ倒そう

改憲・戦争・人権侵害を許さない！！

★被曝させない 全原発廃炉

★貧困・過労死を絶対許さない

民営化・非正規職化反対

★福島切捨てのオリンピックはやらない

全学連

全日本学生自治会総連合（委員長：齋藤郁真）

メール：mail_cn001@zengakuren.jp HP：http://www.zengakuren.jp

1・17法大デモへ!

すべての学生に1月17日、法政大学で行われるデモへの参加を訴えます。私たち自身の行動で私たちの未来を切り開こう!

「大学改革」粉碎! 学生は行動しよう!

小泉元首相の「大学改革」によって、「産学連携」の美名の下に大学への大企業の参入が強まり、学問は商品としてスポンサーに奉仕するものに変えられました。大学は電力会社をはじめとする「原子カムラ」が根を張り、福島原発事故はその腐敗を暴露しましたが、今も「放射能安全キャンペーン」は大学で再生産されています。

一方、私たち学生には高い学費とそれに伴う奨学金ローンが押し付けられ、「就活」にみられるように学生自体も大学のブランドをつけた商品として扱われています。そして社会に出れば「商品」である若者はそれ相応に「社畜」として扱われています。ますます増えていく「ブラック企業」、生きるために働いているのに働くことによって殺される過労死……。怒りを表明する場すら奪われており、明らかに私たちの責任ではない世界的な大不況の現実を逆手にとった負のスパイラルは拡大するばかりです。

こうした現実をさらに進めようとしているのが安倍政権です。「世界一企業が活動しやすい国にする」「民間活力の爆発」……。こんなことを言いながら派遣法の改悪を進めようとしています。民間活力の爆発は私たちの生活と未来を破壊してきたのであり、もはやこんなものにだまされてはなりません。青年・学生こそがすべてを奪い返すために立ち上がる時です。



武田君への処分を撤回させよう!

「大学改革」=「教育の民営化」と最も激しく闘ってきたのが法大闘争です。法政大学の学生は全国の学生と共に、ビラまき規制や学祭規制をはじめとする、学生を抑圧するキャンパスのあり方に反対してきました。8年間で125名の逮捕者や13名の停学・退学処分者を出しながらも、鈴木たつお弁護士団長をはじめとする多くの弁護士の支援を受けながら今も不屈に闘いぬかれています。

法政大学文化連盟は大学当局に非公認化され、委員長・武田君に無期停学処分を下されても「処分撤回」を掲げて闘っています。この処分はすべての学生への見せしめの脅しであり、武田君が処分撤回を勝ちとり、キャンパスに戻るところに大学を変え、社会を変える展望があります。

オリンピック利権に浸かり、医療を民営化して私たちの生活を食べ物にした猪瀬前都知事は打倒されました。学生が団結し、声をあげれば「大学改革」はつぶせます! すべての学生は1・17法大デモへ集まろう!

「教育の民営化」粉碎! 不当処分撤回・学祭規制撤廃!

1・17法大包囲デモ

1月17日(金) 12時40分: 法政大学正門前集合 13時: デモ出発~13時半終了

●呼びかけ 法政大学文化連盟、全学連